

元總社蒼海遺跡群(47)

前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2013.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(47)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



蒼海城廻図(山崎・1978)より

2013.3

前橋市教育委員会

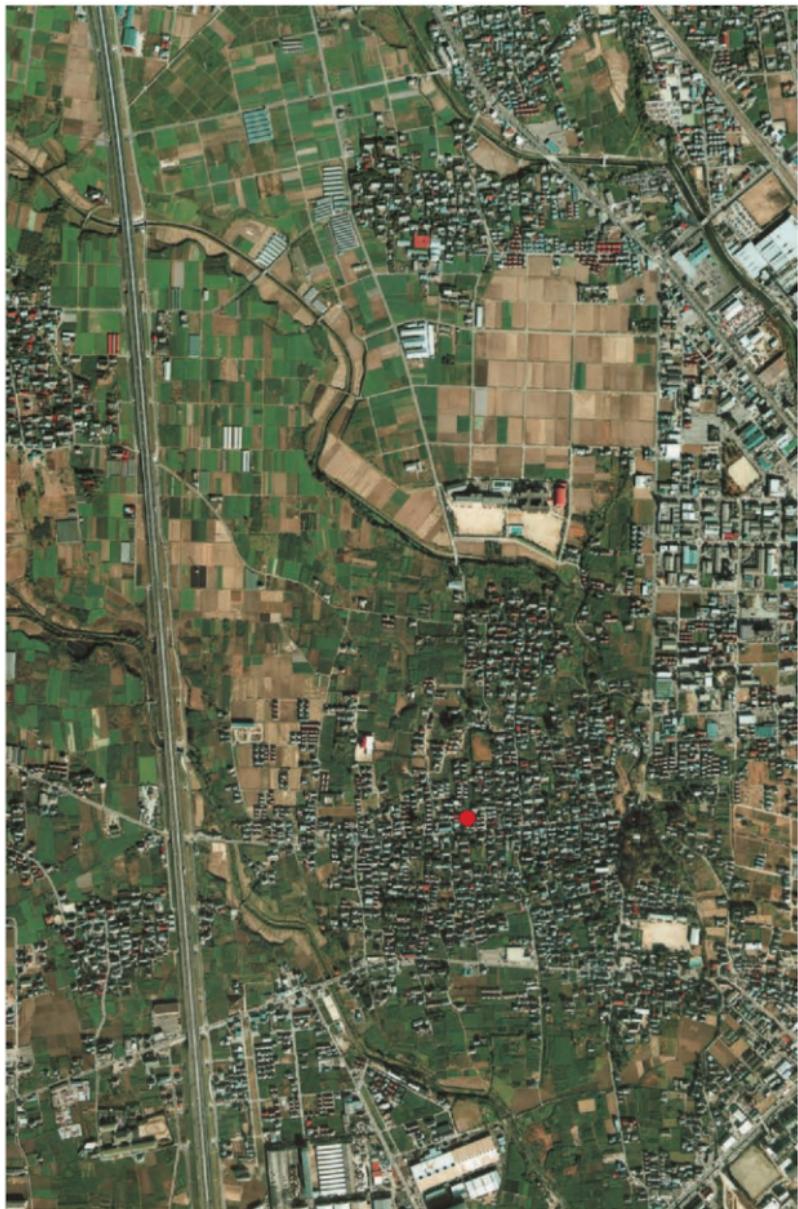


元總社蒼海遺跡群（47）調査区全景（上が西）



W-2号溝跡全景（上が西）

図解写真2



航空写真集 前橋市全域 No.014 (昭和 61 年) 元總社地区抜粋

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（47）は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、中世蒼海城に関する堀が検出されました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿や中世蒼海城を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、極寒の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成25年3月

前橋市教育委員会
教育長 佐藤博之

例　　言

- 1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う元総社遺跡群(47)発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査の要綱は次の通りである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群 (47)
調査場所	前橋市元総社町 2156
遺跡コード	24A130 - 47
発掘・整理担当者	相澤正信 (株式会社シン技術コンサル)
発掘調査期間	平成 25 年 2 月 4 日～平成 25 年 2 月 25 日
整理・報告書作成期間	平成 25 年 2 月 26 日～平成 25 年 3 月 27 日

- 3 本書の原稿執筆は 1 を福田貫之(前橋市教育委員会)、他を相澤正信(株式会社シン技術コンサル)が担当した。
- 4 本書はデジタル編集・組版により作成し、その作業は相澤正信、坂本勝一、新井かおり(株式会社シン技術コンサル)が担当した。
- 5 発掘調査及び整理作業参加者は次の通りである。

福嶋正史 志村将直 荒井 洋 (株式会社シン技術コンサル)
荻原人志 大澤啓介 早川健一 岸 栄吾 (株式会社栗原総合測量)
碇 勝昭 上田洋邦 金井順子 金井光政 嵐嶽山宗征 新井かおり 木村真弓 馬淵恵美子 鈴木澄江
- 6 本調査における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 7 下記の諸氏、諸機関にご指導、ご協力を賜りました。記して謝意を表します。(順不同、敬称略)

株式会社栗原総合測量 山下工業株式会社 技研測量設計株式会社

凡　　例

- 1 採図中に使用した北は座標北である。
- 2 採図に国土地理院発行 1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
- 3 土層の色調は『新版標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修)に基づいている。
- 4 遺構名称は、柱列跡：B、溝跡：W、土坑：D、井戸跡：I、ピット：P である。
- 5 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構 井戸跡・土坑…1/60 柱列跡・ピット…1/30 溝跡…1/40・1/100 全体図 1/100
- 6 遺構図のトーン表現は以下の通りである。

未掘範囲 地山範囲

目 次

口絵 1	
口絵 2	
はじめに	
例言・凡例	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
1 遺跡の位置	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	5
1 調査範囲と基本方針	5
2 調査経過	5
IV 基本層序	5
V 遺構と遺物	6
1 柱列跡・溝跡	6
2 井戸跡・土坑・ピット	6
VI まとめ	16
引用・参考文献	16
写真図版	

挿図目次

Fig.1	遺跡の位置と周辺遺跡図	2
Fig.2	基本層序	5
Fig.3	調査区全体図	9
Fig.4	W-1・2号溝跡	10
Fig.5	B-1・2号柱列跡(1)	12
Fig.6	B-1・2号柱列跡(2)	13
Fig.7	I-1～5号井戸跡・D-1～5号土坑	14
Fig.8	『蒼海城絵図』(複製 前橋市総社資料館蔵)	15
Fig.9	調査区の位置と蒼海城縄張図(山崎-1978)	15

表目次

Tab.1	周辺遺跡一覧表	3
Tab.2	柱列跡計測表	7
Tab.3	溝跡・井戸跡・土坑計測表	7
Tab.4	ピット計測表	8

写真図版目次

PL.1	完掘状況 全景(東から)、W-1号溝跡 全景(北から)	
PL.2	柱列跡 全景(北から)、完掘状況 全景(西から)、W-1号溝跡 北壁土層断面(南から)、 W-2号溝跡 西壁土層断面(東から)、W-2・3号溝跡 検出状況(北から)	

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、14年目にあたり。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成24年12月27日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成25年1月18日付けで前橋市と民間調査組織である株式会社シン技術コンサル前橋営業所との間で発掘調査業務契約を締結し調査を開始した。

なお、遺跡名称「元總社蒼海遺跡群（47）」（遺跡コード：24A130-47）の「元總社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（47）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置 (Fig.1)

本調査地は、前橋市の中心部から利根川を越えて、西へ約3.5kmの地点、前橋市元總社地内に所在している。調査地の西側約0.6kmには関越自動車道、南側約1kmには国道17号線が走っている。本遺跡は、染谷川と牛池川に挟まれた前橋台地上に立地しており、現況は、畠地に囲まれた閑静な住宅地である。

2 歴史的環境 (Fig.1、Tab.1)

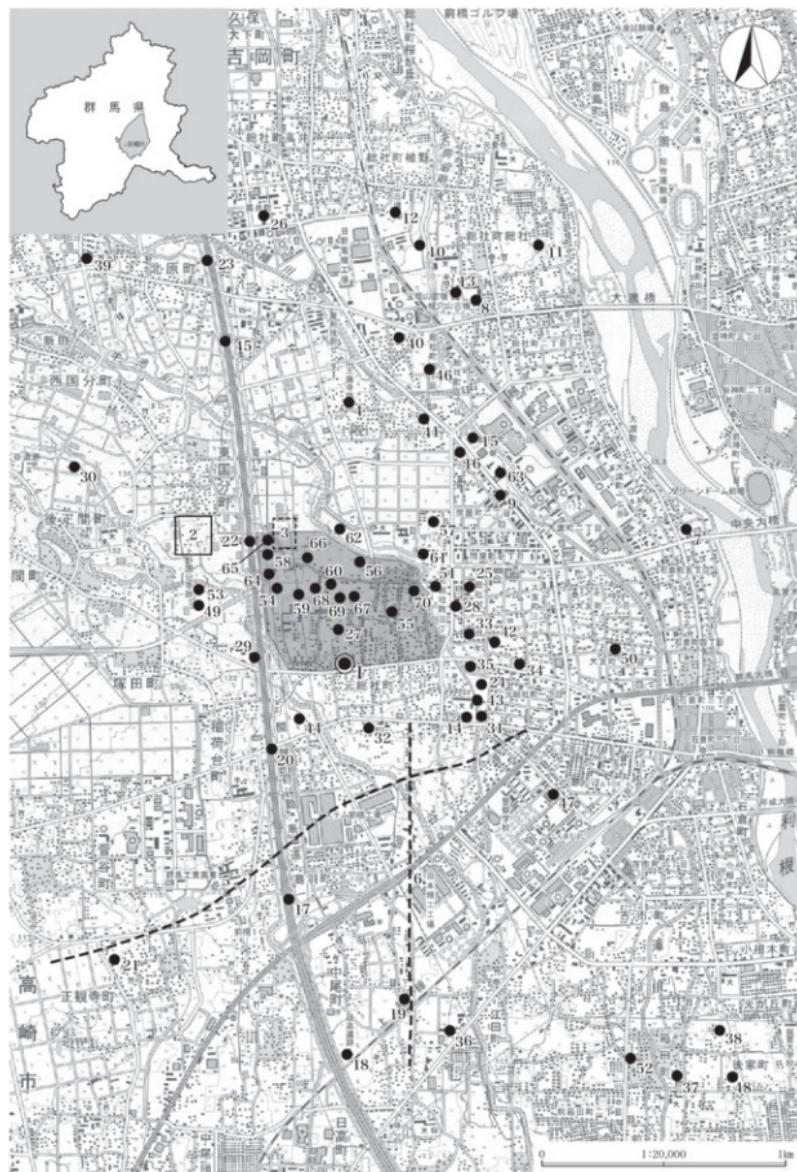
本遺跡が立地する元總社地域は、上野国府推定地であり、国分寺、国分尼寺、山王庵寺等が建立され、奈良・平安時代の政治の中心地域として知られている。ここでは、元總社地区を中心とした周辺遺跡を時代ごとに概観してみたい。

绳文時代の遺跡としては、産業道路東遺跡[15]、産業道路西遺跡[16]、元總社小見遺跡[54]、元總社小見II遺跡[58]、元總社小見III遺跡[59]、元總社小見IV遺跡[64]、元總社小見V遺跡[65]等があり、当該期の遺跡を知る上で貴重な資料を提示している。

弥生時代の遺跡は、数が少なく、日高遺跡[18]・[19]、正觀寺遺跡I～IV（高崎市）[21]、上野国分僧寺・尼寺中間地点[22]がある。日高遺跡では、樽式期の水田、住居跡等が検出され、貴重な成果を得ている。

古墳時代では、總社古墳群と呼ばれる5世紀後半から7世紀末葉にかけての累代の首長墓が築造される。特に、宝塔山古墳[13]、蛇穴山古墳[8]は、白鳳期の建立とされる山王庵寺[4]と石造技術等の共通性から古墳の築造と寺院の建立が併行して行われたものと考えられている。

奈良・平安時代では、本調査区周辺の約900m四方が上野国府の推定地とされており、大型の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡[14]、人形、墨書き土器「国厨」「曹司」「國」等の遺物が検出された元總社寺田遺跡[43]、元總社明神遺跡[24]では、南北方向の大溝、閑泉廻遺跡[25]では、東西方向の大溝が検出されており、国府の外郭線に推定されている。また、鳥羽遺跡[20]では、多数の鍛冶工房跡、溝に囲まれた大型の掘立柱建物跡が検出された。この特異な建物は、高床式の神殿建築とされている。これらの貴重な調査成果が元總社地域が国府推定地である裏付けとなっている。また、上野国府に密接に関連する遺跡として、上野国分寺[2]、国分尼寺[3]、山王庵寺[4]等がある。上野国分寺跡は、昭和55年からの発掘調査により、金堂・塔の基壇、



元總社蒼海遺跡群

Fig.1 遺跡の位置と周辺遺跡図

国土地理院発行 1/25,000「前橋」を一部改編

礎石、築垣等が確認されている。

中世では、永享元年（1429年）に上野国守護代の長尾氏によってこの地に蒼海城が築かれる。蒼海城は、上野国府跡に築かれた県内最古級に位置づけられる城郭とされ、これらの縄張りが現在の元總社地域の基盤をなしているものと考えられる。元總社蒼海遺跡群（6）、元總社蒼海遺跡群（21）等では、蒼海城縄跡の検出、元總社蒼海遺跡群（26）では、南宋～元時代の青白磁梅瓶が2個体完形で出土している。

今後、元總社蒼海上地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が進む事によって、幻とされてきた上野国府、県内最古級の城郭である蒼海城の詳細が明らかになるものと思われる。

Tab.1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元總社蒼海遺跡群（47）	2012	本遺跡：中世近：蒼海城の駆輪・石内跡・井戸跡・土塁
2	上野国分寺跡（県収容）	1989～89	奈良：金堂基壇・奈良基壇
3	上野国分尼寺跡	(1990)	奈良：西面廻廊・東面廻廊
4	山王寺跡	(1974)	奈良：核心礎・根巻石・金堂基壇・講堂仏龕・回廊跡(?)
5	東山道（新定）	-	
6	白高道（新定）	-	
7	毛古山跡	1972	古墳：前方後円墳（6c期）
8	飛穴山古墳	1975	古墳：方墳（8c前）
9	相舟山古墳	1988	古墳：円墳（6c末～7c初）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：方墳（7c前）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5c期半）
12	綿井二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6c末～7c初）
13	空恐山古墳	未調査	古墳：方墳（7c末）
14	元總社寺宇跡の延長跡	1962	平安：城門・柱立柱建物跡・柱六群・周溝跡
15	南里遺跡東遺跡	1966	織文：住居跡
16	南里遺跡西遺跡	1969	織文：住居跡
17	小中遺跡（多賀町）	1976	奈良：平安：住居跡
18	白高遺跡（多賀町）	1977	奈良：木造柱・方形同溝跡・柱尻跡・木製瓦房・平安：条件剥水跡
19	白高遺跡（須崎町）	(1978)	奈良：木造柱
20	白高遺跡（多賀町）	1979～83	古墳：住居跡・圓形埴跡・奈良・平安：住居跡・獨立柱建物跡（神社跡）
21	玉瓶寺遺跡（名古屋市）	1979～81	奈良：住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
22	野川付跡（足守・足守中間地点）	1980～83	織文：住居跡・柱立柱建物跡・奈良：住居跡・木製瓦房・溝跡・近跡遺跡
23	北原遺跡（須崎町）	1982	織文：木柱・石積跡・古墳・木造柱・奈良・平安：住居跡・獨立柱建物跡
24	元總社寺神道1～XⅢ	1982～96	古墳：住居跡・木製瓦房・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：住居跡・溝跡
25	御厨跡遺跡	1983	奈良：平安：溝跡
26	木根遺跡・日遺跡	1983、1988	奈良：平安：住居跡・溝跡
27	作合遺跡	1984	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：井戸跡
28	国宝塚跡遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
29	草山寺跡遺跡（豊川町）	1985	平安：住居跡
30	尚光院跡（一社：野川町）	1985～87	古墳・住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路遺跡
31	寺山遺跡	1986	平安：住居跡
32	天津遺跡・日遺跡	1986、1988	奈良：平安：住居跡
33	足敷遺跡・日遺跡	1986、1995	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：埴跡・石敷遺跡
34	蟹坂遺跡	1987	奈良：平安：住居跡・溝跡
35	大友塚跡II・日遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下水式土坑
36	勝只遺跡	1987	平安：住居跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺跡・木造跡
38	丘立遺跡	1987	平安：木造跡
39	萬野寺跡・照野谷口B・田遺跡	1988、1989	闕文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
40	木机遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：埴跡
41	呂栗寺跡遺跡・日遺跡	1988	奈良：平安：住居跡
42	聚落丘遺跡	1988	平安：住居跡
43	元總社寺田遺跡I～III（事業地）	1988～1991	古墳・木造跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
44	芦勒遺跡・日遺跡	1989、1995	古墳：住居跡・平安：住居跡
45	田分尾遺跡（李裏田）	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
46	田分尾遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
47	田分尾遺跡（豊川町）	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・埴跡・中世：土壤層
48	人知敷遺跡I～V1	1992～2000	闕文：住居跡・古墳・住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：獨立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
49	五反田遺跡	1993	平安：木造跡
50	上野国分寺跡遺跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
51	大友塚跡遺跡	1998	平安：木造跡
52	越井岡田明治山北遺跡	1999	古墳：墓跡・木造・奈良・平安：住居跡・溝跡
53	越井岡田明治山北II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
54	崩田西遺跡	1999	古墳：溝状遺跡・平安：木造

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
53	元船井小足道跡（事業地）	2000	古墳・住居跡、石器、奈良・平安・住居跡、溝跡
54	元船井小足道跡	2000	古墳・住居跡、石器、奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、溝、追跡状遺跡
55	元船井小足道跡1～23トレンチ	2000	古墳・住居跡、平安・住居跡、鐵製付住居跡、鐵製塗瓦、溝跡、道路状遺跡、中世・溝跡
56	元船井小足道跡	2001	古墳・住居跡、溝跡、奈良・平安・住居跡、鐵製・鐵製付住居跡、溝跡、鐵製付住居跡、中世・溝跡
57	能杜甲斐前大通西口遺跡	2001	奈良・平安・住居跡、溝跡、中世・溝跡
58	元船井小足道跡	2002	奈良・住居跡、奈良・平安・住居跡、溝跡、近世・溝跡
59	元船井小足道跡	2002	奈良・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、中世・道路状遺跡、溝跡
60	元船井小足道跡	2002	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、中世・溝跡
61	元船井小足道跡	2002	奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、溝跡、中世・土塁墓
62	元船井小足道跡（事業地）	2002～2004	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、溝跡、中世・鐵製付住居跡、水田跡、土塁墓
63	橋西岸過去遺跡（事業地）	2003	古墳・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、井戸跡
64	元船井小足道跡	2003	古墳・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、中世・溝跡
65	元船井小足道跡	2003	古墳・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、中世・溝跡
66	元船井小足道跡	2003	古墳・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、中世・溝跡
67	元船井小足道跡	2003	古墳・平安・住居跡、溝跡、中世・埋穴状遺跡
68	元船井小足道跡	2004	古墳・平安・住居跡、中世・溝跡
69	元船井小足道跡	2004	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、工場跡、新干線掘削、中世・溝跡、土塁墓
70	能杜開拓地北之跡跡	2004	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡
元船井北海道遺跡（1）	2005	奈良・平安・住居跡、溝跡、中世・溝跡、土塁墓	
元船井北海道遺跡（2）	2005	奈良・平安・住居跡、溝跡、中世・溝跡、土塁墓	
元船井北海道遺跡（3）	2005	古墳・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡	
元船井北海道遺跡（4）	2005	古墳・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡	
元船井北海道遺跡（5）	2005	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、溝跡、中世・周溝状遺跡、土塁墓	
元船井北海道遺跡（6）	2005	奈良・平安・住居跡、鐵製工具跡、溝跡、中世・舊海岸線の解説、土塁墓	
元船井北海道遺跡（7）	2005	奈良・平安・住居跡、溝跡	
元船井北海道遺跡（8）	2006	奈良・平安・住居跡	
元船井北海道遺跡（9）～（10）	2006	古墳・六柱住居跡、古墳・六柱住居跡、奈良・平安・聖門六柱住居跡、鐵製付住居跡、溝跡、上机、中世・溝跡	
元船井北海道遺跡（11）	2006	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、中世・溝跡	
元船井北海道遺跡（12）	2006	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、中世・井戸跡	
元船井北海道遺跡（13）	2008	古墳・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、工場跡、溝跡、中世・溝跡、土塁墓	
元船井北海道遺跡（14）	2008	古墳・住居跡、木構跡、奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、中世・溝跡、新干線掘削、井戸跡	
元船井北海道遺跡（15）	2008	奈良・平安・住居跡、溝跡、中世・溝跡	
元船井北海道遺跡（16）	2008	奈良・平安・住居跡、品目・中世・溝跡	
元船井北海道遺跡（17）	2008	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、中世・住居跡	
元船井北海道遺跡（18）	2008	平安・住居跡	
元船井北海道遺跡（19）	2008	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、中世・溝跡	
元船井北海道遺跡（20）	2008	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、聖穴状遺跡、溝跡、中世・土塁墓、溝跡	
元船井北海道遺跡（21）	2009	中世・土塁墓の解説、鐵製工具跡、聖穴状遺跡	
元船井北海道遺跡（22）	2009	古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡	
元船井北海道遺跡（23）	2009	古墳・住居跡、平安・上机、中世・舊海岸線の解説	
元船井北海道遺跡（24）	2009	古墳・住居跡、古墳・住居跡、奈良・平安・住居跡、聖穴状遺跡、中世・方形凹門、井戸跡	
元船井北海道遺跡（25）	2009	古墳・住居跡、平安・住居跡、中世・高窓・元和の白石造物類2個体	
元船井北海道遺跡（26）	2009	古墳・平安・住居跡、奈良・平安・住居跡、鐵製付住居跡、土塁墓、火葬跡、地下式井戸、舊海岸線の解説	
元船井北海道遺跡（27）	2010	古墳・住居跡、平安・住居跡、中世・高窓・火葬跡、土塁墓、火葬跡、解説	
元船井北海道遺跡（28）	2010	古墳・平安・住居跡、鐵製・土塁墓、中近世・上机、瓦ト卜・聖穴状遺跡	
元船井北海道遺跡（29）	2010	古墳・聖穴状遺跡、平安・住居跡、中世・瓦ト卜・聖穴状遺跡、性熱不明遺跡	

III 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社土地区画整理事業の道路予定地であり、調査対象面積は156m²である。グリッド座標については、国家座標（日本測地系）X = +44000.0000m・Y = - 72200.0000 (X0・Y0)を基点とする4mピッチを使用し、経線をX、緯線をYとして、北西隅杭の名称を使用した。

本遺跡のX245・Y185の公共座標は以下の通りである。

世界測地系 X = +42726.1728 Y = - 71104.2864

日本測地系 X = +43020.00 Y = - 71460.00

調査方法については、重機による表土掘削、遺構検出、遺構掘削、測量、写真撮影の手順で実施した。遺構の掘削作業では、土層観察用のベルトを設定し、鋤簾、移植ごて等を用いて出土遺物に注意を払いながら慎重に作業を進めた。

遺構図化については、電子平板を用いて平面図の作成を行った。断面図については、オルソー画像を作成して編集作業を行い、ピットは、手尖測による実測作業を行った。写真記録は、35mmモノクロ、35mmリバーサル、デジタルカメラの3種類を併用した。

2 調査経過

本遺跡の発掘調査は、平成25年1月18日付けで業務委託契約を締結し、平成25年2月25日、現地での調査を終了した。調査経過の概略は以下の通りである。

1月25日：現地打ち合わせ。2月4日：南側調査区の表土掘削開始。仮設トイレ搬入。2月5日：遺構確認・検出作業を開始。2月7日：遺構掘削開始。2月19日：南側調査区全景写真撮影。埋め戻し。北側調査区の表土掘削開始。2月21日：北側調査区の全体写真撮影。埋め戻し。2月25日：W-2号溝跡の立ち上りを探すため、調査区北側ヘトレンチ掘削。W-2号溝跡、W-3号溝跡を確認。計測作業、全景写真撮影後、埋め戻し。発掘調査の全行程を終了。

IV 基本層序

本調査区は、大部分を溝跡が占めており、調査区南壁中央部付近を基本層序として観察した。表土は、近現代の盛土と考えられ、II層直下で遺構検出作業を行った。また、III層は調査区中央部から東半部にかけての部分的な堆積状況であった。

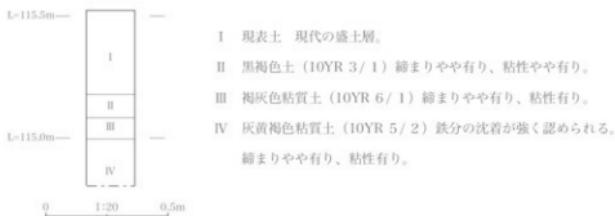


Fig.2 基本層序

V 遺構と遺物

柱列跡 2 基、溝跡 3 条、井戸跡 6 基、土坑 5 基、ピット 72 基を検出した。このうち、ピットについては計測表を参照していただきたい。また、検出した遺物はいずれも破片資料であり、図示、写真の掲載は行ってはいない。

1 柱列跡・溝跡

B-1号柱列跡 (Fig.5・6、PL.2)

位置 Y243 ~ 244 X183 主軸方向 N - 2°- E 総長 約 4.0m 形状 南北方向 3 間の柱列。重複 なし。出土遺物 P 2 より近世陶磁器。時期 出土遺物から近世と考えられる。

B-2号柱列跡 (Fig.5・6、PL.2)

位置 Y243 ~ 244 X183 ~ 184 主軸方向 N - 2°- E E - 2°- N 総長 東西約 3.6m、南北約 3.3m 形状「L」字状を呈する柱列跡。重複 なし。出土遺物 なし。時期 出土遺物が無いため詳細は不明であるが、B-1 の柱穴と埋し、掘り方の形状が類似するため、近世と考えたい。

W-1号溝跡 (Fig.3・4、PL.1)

位置 Y243 ~ 244 X185 ~ 186 主軸方向 N - 1°- W 長さ (5.62) m 最大幅 A期 (3.40) m B期 (2.60) m 深さ A期 1.33m B期 1.79m 以上。形状等 南北方向に走行し、断面は A期では弧状～逆台形を呈する。B期では東側の立ち上がりが調査区外の現道下になり、部分的な検出状況ではあるが、箱状、あるいは逆台形を呈するものと思われる。B期の埋土中にややグライ化した粘土、砂層が確認できることから、湛水したものと思われる。重複 B→A 出土遺物 A期 近世陶磁器類。B期 なし。時期 A期 遺物から近世頃と思われる。B期 出土遺物がないため、詳細は不明であるが、規模から蒼海城の堀跡と想定される。

W-2号溝跡 (Fig.3・4、PL.2)

位置 Y240 ~ 243 X183 ~ 185 主軸方向 N - 87°- W 長さ (9.17) m 最大幅 A期 2.34m B期 (4.56) m C期 (1.50) m 深さ A期 1.26m B期 2.38m C期 2.74m 形状等 東西方向へ走行し、A期では、調査区東端部付近でW-1号溝跡と接続することが確認された。断面形状は、A期、B期では逆台形を呈しており、C期では底面南側の立ち上がりのごく一部をみると、箱状、あるいは逆台形を呈するものと想定される。重複 C→B→A。出土遺物 A期 近世陶磁器類。C期 底面よりカワラケ口縁小片が1点出土した。時期 A期 遺物から近世頃と思われる。B期、C期については、規模・遺物から蒼海城堀跡と想定される。

W-3号溝跡 (Fig.3・4、PL.2)

位置 Y240 X184 ~ 185 主軸方向 N - 88°- W 長さ (1.10) m 最大幅 2.40m 深さ 1.51m 形状等 東西方向の溝跡と考えられるが、トレンチ内の大部分を搅乱に壊される。断面形状は「V」字状に近い逆台形を呈する。重複 トレンチ西壁の観察からW-2号溝跡B期より新しい。出土遺物 なし。時期 詳細な時期については、不明であるが、形状、規模等からW-2号溝跡A期に近いものと想定される。

2 井戸跡・土坑・ピット

I-1号井戸跡 (Fig.7、PL.2)

位置 Y244 X183 ~ 184 長さ 1.34m 最大幅 1.25m 深さ (1.81) m 形状 円形。重複 なし。出土遺物 近世陶磁器類、カワラケ小片。時期 出土遺物から近世以降と考えられる。

I-2号井戸跡 (Fig.7、PL.2)

位置 Y244 X184 長さ 0.97m 最大幅 0.90m 深さ 1.51m 形状 円形。重複 なし。出土遺物 近世陶磁器類。時期 出土遺物から近世以降と考えられる。

I - 3号井戸跡 (Fig.7、PL.2)

位置 Y244 X184 長さ (0.71) m 最大幅 (0.21) m 深さ (0.45) m 形状 (円形)。重複なし。出土遺物なし。
時期 出土遺物がないため、詳細については不明である。

I - 4号井戸跡 (Fig.7、PL.2)

位置 Y244 X183 長さ 0.96m 最大幅 (0.44) m 深さ (0.36) m 形状 (円形)。重複 I - 5より新しい。出土遺物なし。時期 出土遺物がないため、詳細については不明である。

I - 5号井戸跡 (Fig.7、PL.2)

位置 Y244 X183 ~ 184 長さ (0.85) 最大幅 (0.65) m 深さ (0.21) m 形状 (円形)。重複 I - 4より古い。出土遺物なし。時期 出土遺物がないため、詳細については不明である。

I - 6号井戸跡 (Fig.7、PL.2)

位置 Y244 X186 長さ -最大幅 1.14m 深さ (1.46)m 形状 (円形)。重複 W - 1 A期より新しい。出土遺物なし。
時期 出土遺物がないため、詳細については不明であるが、W - 1 A期より新しいことから近世以降と考えられる。

D - 1号土坑 (Fig.7、PL.2)

位置 Y243 ~ 244 X183 長さ 1.03m 最大幅 0.95m 深さ 0.09m 形状 円形。重複なし。出土遺物なし。時期 出土遺物がないため、詳細は不明である。

D - 2号土坑 (Fig.7、PL.2)

位置 Y243 X185 長さ 0.80m 最大幅 (0.63) m 深さ 0.08m 形状 (円形)。重複なし。出土遺物なし。時期 出土遺物がないため、詳細は不明である。

D - 3号土坑 (Fig.7、PL.2)

位置 Y244 X185 長さ 0.81m 最大幅 0.81m 深さ 0.30m 形状 円形。重複 P - 31 ~ 32、P - 64、P - 71 より新しい。出土遺物なし。時期 出土遺物がないため、詳細は不明である。

D - 4号土坑 (Fig.7、PL.2)

位置 Y244 X185 長さ 0.81m 最大幅 0.76m 深さ 0.14m 形状 円形。重複なし。出土遺物なし。時期 出土遺物がないため、詳細は不明である。

D - 5号土坑 (Fig.7、PL.2)

位置 Y243 X183 長さ 1.13m 最大幅 1.13m 深さ 0.09m 形状 不整方形。重複 P - 14、P - 19、P - 44 より古い。出土遺物なし。時期 出土遺物がないため、詳細は不明である。

Tab.2 柱列跡計測表

遺構名	位 置	主軸方位	絶長	柱 間	出土遺物	備 考
B - 1	Y243 ~ 244 X183	N 2° E	約 4.00m	南から約 1.30m、1.20m、1.40m	P2より近世陶器	近世以降と思われる。
	Y243 ~ 244 X183 ~ 184	N 91° E	約 3.60m	西北から約 0.80m、0.90m、1.00m、0.90m		

Tab.3 溝跡・井戸跡・土坑計測表

(単位 : m)

遺構名	位 置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備 考
W - 1 A	Y243 ~ 244	(5.62)	(3.40)	1.33	南北方向の溝	近世陶器、瓦類	2時期以上の重複。
W - 1 B	X185 ~ 186		(2.60)	(1.79)			
W - 2 A			2.34	1.26		近世陶器	
W - 2 B	Y240 ~ 243 X183 ~ 185	(9.17)	(4.56)	2.38	東西南北の溝		3時期の重複。
W - 2 C			(1.50)	2.74		カワラケ	
W - 3	Y240 X184 ~ 185	(1.10)	2.40	1.51	東西南北の溝		トレレンチ北端部の断面で確認。
1 - 1	Y244 X183 ~ 184	1.34	1.25	(1.81)	円形	近世陶器、瓦類	
1 - 2	Y244 X184	0.97	0.90	1.51	円形	近世陶器	
1 - 3	Y244 X184	(0.71)	(0.21)	(0.45)	(円形)		
1 - 4	Y244 X183	0.96	(0.44)	(0.36)	(円形)		
1 - 5	Y244 X183 ~ 184	(0.85)	(0.65)	(0.21)	(円形)		
1 - 6	Y244 X186	-	1.14	(1.46)	(円形)		溝跡北壁でのみ確認。
D - 1	Y243 ~ 244 X183	1.03	0.95	0.09	円形		
D - 2	Y243 X185	0.80	(0.63)	0.08	(円形)		
D - 3	Y244 X185	0.81	0.81	0.30	円形		
D - 4	Y244 X185	0.81	0.76	0.14	円形		
D - 5	Y243 X183	1.13	1.13	0.09	不整方形		

Tab.4 ピット計測表

(単位: m)

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備考
P-1	Y244 X183	0.37	0.30	0.36	長方形		
P-2	Y244 X183	0.36	0.31	0.37	方形	近世陶磁器	
P-3	Y243 X183	0.35	0.32	0.56	方形		
P-4	Y243 X183	0.47	(0.25)	0.31	(長方形)		
P-5	Y243 X183	0.28	0.27	0.30	方形		
P-6	Y243 X183	0.31	0.29	0.25	方形		
P-7	Y243 X183	0.34	0.33	0.38	方形		
P-8	Y243 X183	0.20	0.20	0.17	方形	カワラケ小片	
P-9	Y243 X184	0.43	0.34	0.25	不整形		
P-10	Y243 X184	0.29	(0.15)	0.06	梢円形	カワラケ底部小片	
P-11	Y243 X184	0.43	0.27	0.38	長方形		
P-12	Y244 X183	(0.19)	0.16	0.07	(長方形)		
P-13	Y243 ~ 244 X183	0.44	0.33	0.48	長方形	キセル 売い口	
P-14	Y244 X183	0.37	0.34	0.40	長方形		
P-15	Y243 X184	0.35	0.22	0.36	長方形		
P-16	Y243 X184	0.31	0.30	0.20	方形		
P-17	Y244 X184	0.42	0.40	0.21	方形		
P-18	Y243 X183	0.46	(0.28)	0.09	(長方形)		
P-19	Y243 X183	0.32	0.27	0.10	長方形		
P-20	Y243 X184	0.31	0.26	0.28	不整形	カワラケ小片 近世陶器小片	
P-21	Y243 X184	0.39	0.30	0.38	長方形		
P-22	Y243 X184	0.34	0.33	0.48	方形	近世陶器	
P-23	Y244 X184	0.25	0.22	0.16	長方形		
P-24	Y244 X184	0.27	0.23	0.12	長方形		
P-25	Y243 X184	0.22	(0.20)	0.11	(長方形)		
P-26	Y243 X184	0.42	0.32	0.38	長方形		
P-27	Y243 X185	0.26	0.24	0.29	方形		
P-28	Y243 X185	0.39	(0.19)	0.26	(長方形)		
P-29	Y243 X185	0.36	0.34	0.42	方形		
P-30	Y244 X185	0.31	0.25	0.30	長方形		
P-31	Y244 X185	0.22	0.20	0.31	方形		
P-32	Y244 X185	0.64	0.54	0.05	円形		
P-33	Y243 X185	0.42	0.39	0.36	方形		
P-34	Y244 X183	0.20	0.18	0.09	梢円形		
P-35	Y244 X183	0.18	0.16	0.07	方形		
P-36	Y244 X183	0.24	0.20	0.11	長方形		
P-37	Y244 X183	(0.18)	(0.11)	0.10	(方形)		
P-38	Y244 X183	0.32	(0.22)	0.20	(不整形)		
P-39	Y243 X183	0.16	0.16	0.10	方形		
P-40	Y243 X183	0.16	0.14	0.07	方形		
P-41	Y243 X183	0.14	0.12	0.05	梢円形		
P-42	Y243 X183	0.18	(0.16)	0.09	(方形)		
P-43	Y243 X183	0.24	0.16	0.05	不整形		
P-44	Y243 X183	0.24	0.24	0.28	方形		
P-45	Y243 X183	(0.18)	0.16	0.10	(長方形)		
P-46	Y243 X183	0.22	0.20	0.16	方形		
P-47	Y243 X183	0.26	(0.20)	0.04	(長方形)		
P-48	Y243 X183	0.18	0.16	0.06	方形		
P-49	Y243 X184	0.22	0.20	0.20	方形		
P-50	Y243 X184	0.20	0.16	0.20	方形		
P-51	Y243 X184	0.16	0.16	0.19	梢円形		
P-52	Y243 X184	0.24	0.22	0.08	方形		
P-53	Y243 X183	0.18	0.16	0.12	方形		
P-54	Y243 ~ 244 X184	0.20	0.18	0.04	方形		
P-55	Y244 X183 ~ 184	0.32	(0.26)	0.26	(不整形)		
P-56	Y244 X184	0.20	0.18	0.10	方形		
P-57	Y243 X184	0.18	0.18	0.26	方形		
P-58	Y243 X184	0.26	0.24	0.11	方形		
P-59	Y243 X185	0.20	0.14	0.08	梢円形		
P-60	Y243 X185	0.20	0.17	0.06	梢円形		
P-61	Y243 X185	0.48	(0.18)	0.12	(梢円形)		
P-62	Y243 X185	0.36	0.32	0.14	長方形		
P-63	Y243 X185	0.15	0.14	0.12	円形		
P-64	Y244 X185	0.20	0.20	0.22	方形		
P-65	Y244 X185	0.26	(0.16)	0.12	(梢円形)		
P-66	Y244 X185	0.26	0.22	0.05	長方形		
P-67	Y244 X185	(0.20)	(0.13)	0.28	(梢円形)		
P-68	Y244 X185	0.32	0.26	0.14	梢円形		
P-69	Y244 X185	0.22	(0.20)	0.22	(方形)		
P-70	Y244 X185	0.28	(0.13)	0.14	(長方形)		
P-71	Y244 X185	0.18	(0.15)	0.12	(方形)		
P-72	Y244 X185	0.22	0.20	0.26	方形		

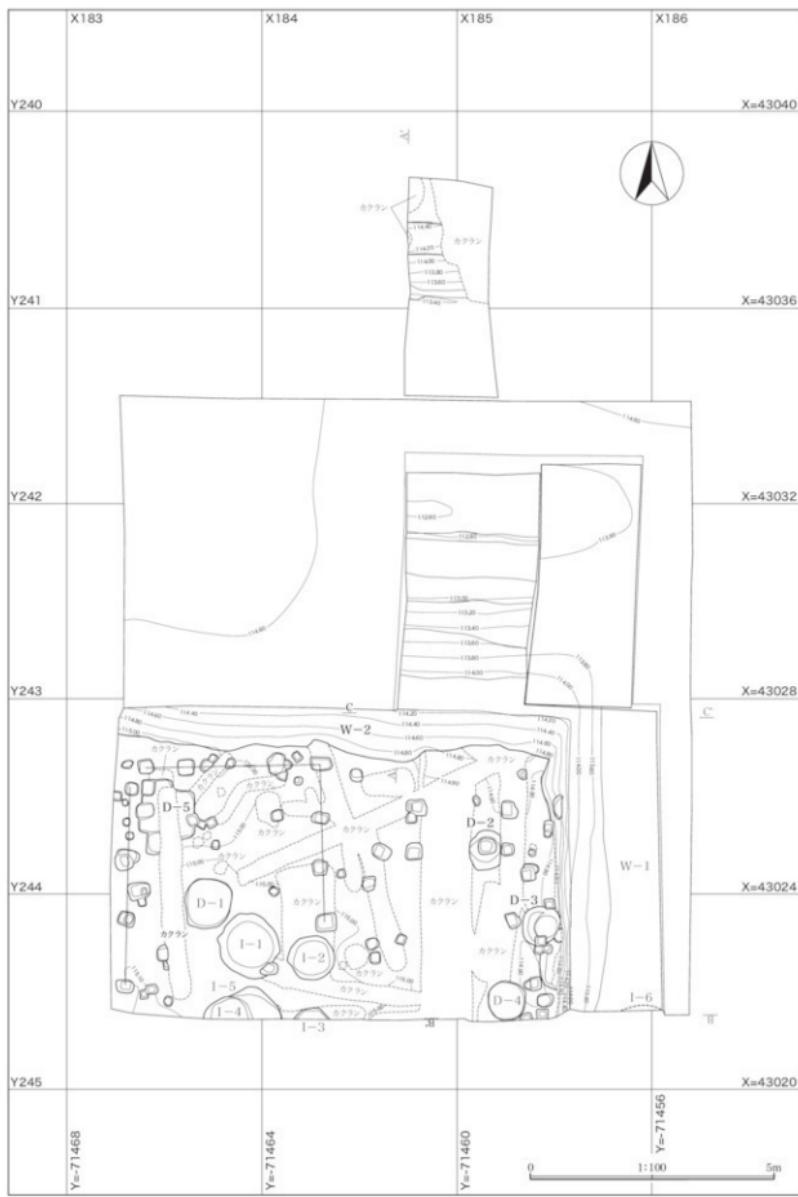
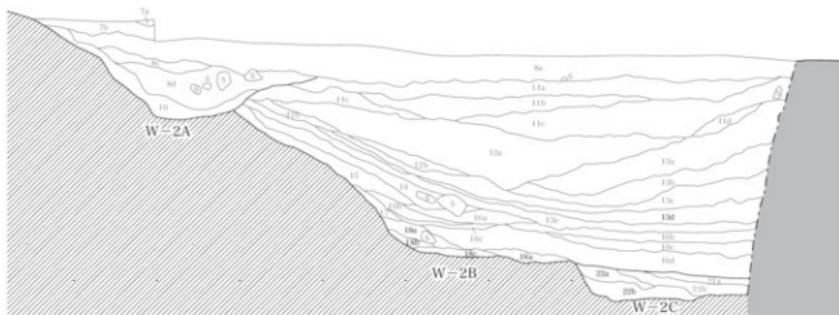


Fig.3 調査区全体図

A. L=115.5m



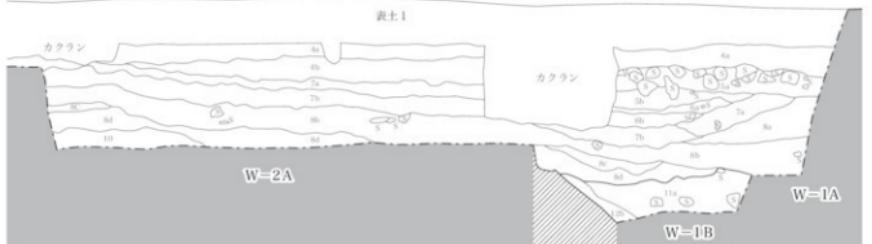
B. L=115.5m

表土 I



C. L=115.5m

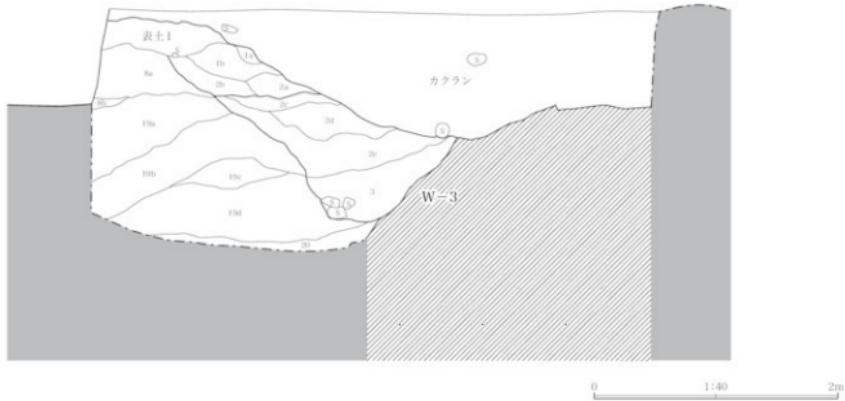
表土 I



W-1・2 号溝跡

- 1a. IOYIC/3 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.1 ~ 0.5cm 大の塊山シルト粒を少量含む。 ϕ 0.1 ~ 0.3cm 大の白色マトリックスを少量含む。
- 1b. IOYIC/3 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 2 ~ 5cm 大の塊山シルト粒を中量含む。
- 2a. IOYIC/4 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 1 ~ 3cm 大の塊山シルトブロックを中量含む。人为堆積物。
- 2b. IOYIC/4 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 1 ~ 3cm 大の塊山シルトブロックを中量含む。人为堆積物。
- 2c. IOYIC/3 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 1 ~ 3cm 大の塊山シルトブロックを中量含む。人为堆積物。
- 2d. IOYIC/3 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5 ~ 3cm 大の塊山シルトブロックを中量含む。人为堆積物。
- 2e. IOYIC/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 1 ~ 3cm 大の塊山シルトブロックを多量に含む。人为堆積物。
3. IOYIC/3 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5 ~ 2cm 大の塊山シルトブロックを少量含む。
- 4a. IOYIC/3 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.1 ~ 0.5cm 大の塊山シルト粒を少量含む。 ϕ 0.1 ~ 0.3cm 大の白色マトリックスを少量含む。
- 4b. IOYIC/3 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 2 ~ 5cm 大の塊山シルト粒を少量含む。
- 5a. IOYIC/3 前期色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.1 ~ 0.5cm 大の塊山シルト粒を少量含む。 ϕ 5 ~ 20cm 大の礫を多量に含む。

Fig.4 W-1・2 号溝跡



- 5b. 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 2～5cm 大の地山シルト粒を少量含む。
 6a. 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.3～1cm 大の地山シルト粒をごく少量含む。
 6b. 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 2～5cm 大の地山シルト粒をごく少量含む。
 7a. 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.1～0.5cm 大の地山シルト粒を中量含む。人为堆積層。
 7b. 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 2～5cm 大の地山シルト粒を中量含む。人为堆積層。
 7c. 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 1～3cm 大の地山(1-4) ブロックを少量含む 黒色シルト土をブロック状に少量含む。人为堆積層。
 8a. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.1～0.5cm 大の塊状・塊状化物を微量含む。
 8b. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の地山シルト粒を少量含む。
 8c. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の地山シルト粒を中量含む。
 8d. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.2～0.5cm 大の炭化物塊・塊状を少量 ϕ 0.5～1cm 大の地山シルト粒を少量含む。
 9. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の炭化物塊と考えられる。
 10. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の地山シルト粒を中量含む。
 11a. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～3cm 大の地山シルトブロックを中量含む。人为堆積層。
 11b. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～3cm 大の地山シルト粒を少量含む。人为堆積層。
 11c. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 1～10cm 大の地山シルトブロックを多量に含む。人为堆積層。
 11d. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の地山シルト粒を中量含む。人为堆積層。
 12a. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の地山シルト粒をごく少量含む。
 12b. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の地山シルト粒を少量含む。
 13. 2.5Y2/1 黑褐色土 しまりやや有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の炭化物塊を少量含む。水性堆積層。
 13b. 5Y2/1 オリーブ黒褐色粘土 剥離化 ϕ 1層やや有り 粒性弱い ϕ 0.5～2cm 大の砂ブロックを少量含む。水性堆積層。
 13c. 5Y2/1 黑褐色土 剥離化 ϕ しまりやや有り 粒性強い 水性堆積層。
 13d. 5Y2/1 オリーブ黒褐色粘土 剥離化 ϕ 1層やや有り 粒性弱い 表状に砂解を含む。水性堆積層。
 13e. 5Y2/1 黑褐色土 剥離化 ϕ しまりやや有り 粒性強い 水性堆積層。
 14. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 1～5cm 大の地山シルトブロックを少量含む。
 15. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い。
 16a. 5Y2/1 黑褐色土 剥離化 ϕ しまりやや有り 粒性強い 水性堆積層。
 16b. 5Y2/1 黑褐色土 剥離化 ϕ しまりやや有り 粒性強い 水性堆積層。
 16c. 5Y2/1 黑褐色土 剥離化 ϕ しまりやや有り 粒性強い 水性堆積層。
 16d. 5Y2/1 黑褐色土 剥離化 ϕ しまりやや有り 粒性強い 水性堆積層。
 17. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い。
 18. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い 夢大の礫を含む。水性堆積層。
 18c. 5Y2/1 黑褐色土 剥離化 ϕ しまりやや有り 粒性強い 水性堆積層。
 18e. 2.5YR2/1 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い。
 19a. 10YR3/1 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～1cm 大の地山シルト粒を少量含む。人为堆積層。
 19b. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～3cm 大の地山シルト粒を中量含む。人为堆積層。
 19c. 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.1～0.5cm 大の地山シルト粒を多量含む。人为堆積層。
 19d. 10YR3/1 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粒性弱い ϕ 0.5～2cm 大の地山シルト粒を多量含む。人为堆積層。
 20. 2.5Y2/1 黑褐色粘土 しまり有り 粒性強い 剥離化 水性堆積層。
 21a. 5Y2/1 黑褐色土 しまり有り 粒性強い 水性堆積層。
 21b. 5Y2/1 黑褐色土 しまり有り 粒性弱い 1層やや有り 粒性弱い 水性堆積層。
 22a. 2.5Y2/1 黑褐色粘土 しまり有り 粒性強い ϕ 0.1～0.5cm 大の地山シルト粒をごく少量含む。水性堆積層。
 22b. 5Y2/1 オリーブ黒褐色粘土 しまり有り 粒性強い 砂粒を帶状に含む水性堆積層。

I-6 号井戸

1. 10YR3/1 黑褐色砂質シルト土 しまりやや有り 粒性弱い ϕ 0.2～0.5cm 大の炭化物塊。 ϕ 0.5～1cm 大の地山粒を少量含む。

X184

Y243

X=43028

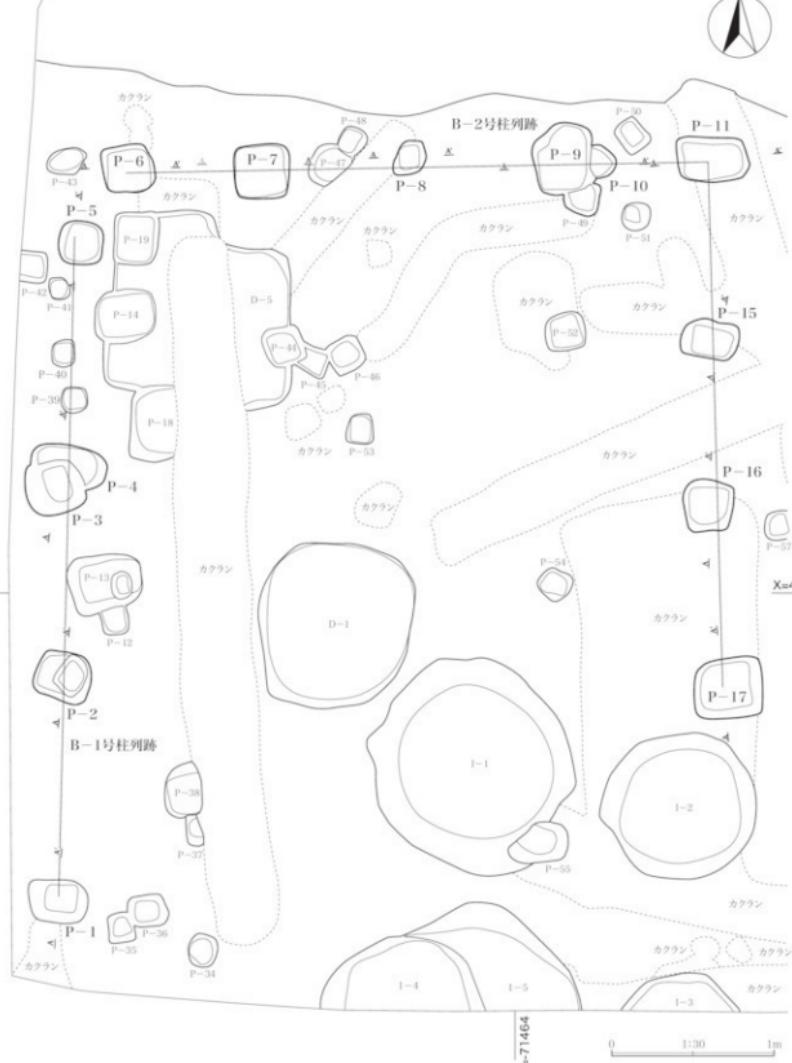
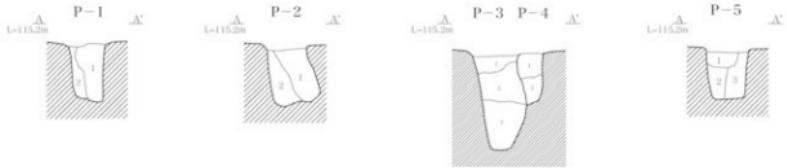


Fig.5 B-1・2号柱列跡 (1)



P - 1

- 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い 地下炭化物を少量含む。柱抜き取る。

- 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 1 \sim 2cm$ 大の地山シルト粒を少量含む。割り方理土。

P - 2

- 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 1 \sim 2cm$ 大の小礫、 $\phi 0.2 \sim 0.4cm$ 大の炭化物を少量含む。柱抜き取る。

- 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 1 \sim 2cm$ 大の地山シルト粒を少量含む。割り方理土。

P - 3

- 10YR3/3 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を中量含む。柱抜き取る。

- 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒をごく少量含む。柱抜き取る。

- 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 1 \sim 2cm$ 大の地山シルト粒を微量含む。柱抜き取る。

P - 4

- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を少量化。割り方理土。

- 10YR2/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を炭化物を微量含む。割り方理土。

P - 5

- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を中量含む。柱抜き取る。

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒をごく少量含む。柱抜き取る。

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を多量に含む。割り方理土。



P - 6

- 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を少量含む。柱抜き取る。

- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 1 \sim 3cm$ 大の地山シルト粒をごく少量含む。割り方理土。

P - 7

- 10YR2/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 2cm$ 大の炭化物を中量含む。柱抜き取る。

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 2cm$ 大の地山シルト粒を中量含む。割り方理土。

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を中量含む。割り方理土。

P - 8

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を少量化。

P - 9

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を微量含む。柱抜き取る。

- 10YR2/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 1 \sim 5cm$ 大の地山シルト粒を多量に含む。柱抜き取る。

- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を中量含む。割り方理土。

P - 10

- 10YR2/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を少量化。



P - 11

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を少量化。柱抜き取る。

- 10YR2/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を少量化。柱抜き取る。

- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 1 \sim 4cm$ 大の地山シルト粒を中量含む。割り方理土。

P - 15

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を少量化。柱抜き取る。

- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 2 \sim 4cm$ 大の小礫を少量。 $\phi 1 \sim 3cm$ 大の地山シルト粒を中量含む。割り方理土。

P - 16

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い 基底の角削。 $\phi 1 \sim 2cm$ 大の地山シルト粒を少量含む。

P - 17

- 10YR3/2 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 0.5 \sim 1cm$ 大の地山シルト粒を少量化。柱抜き取る。

- 10YR3/3 黑褐色砂質シルト土 しまり有り 粘性弱い $\phi 1 \sim 3cm$ 大の地山シルト粒を中量含む。割り方理土。

0 1:30 1m

Fig.6 B - 1・2号柱列跡 (2)





Fig.8 「蒼海城絵図」(複製 前橋市總社資料館蔵)



Fig.9 調査区の位置と蒼海城縄張図 (山崎-1978)

VI　まとめ

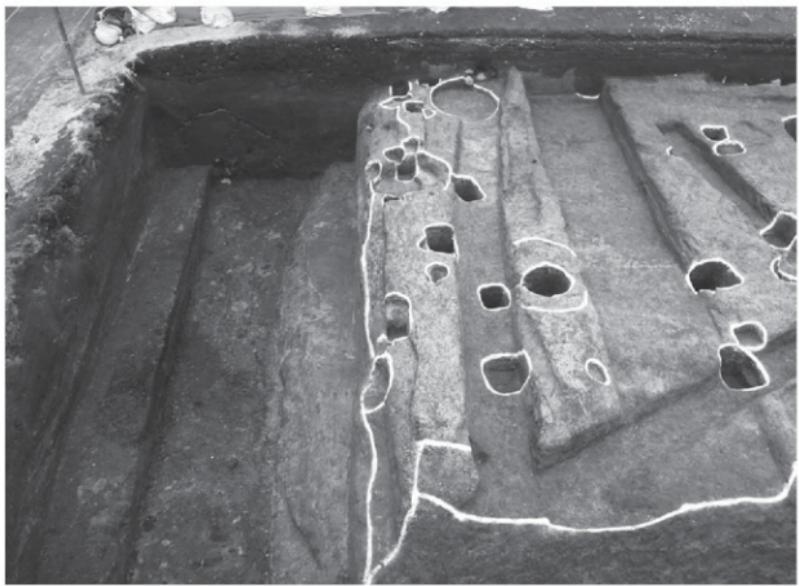
今回の調査では、柱列跡、井戸跡、土坑、蒼海城の堀跡と考えられる南北方向へ走行するW-1号溝跡、これと「T」字に接続し、西へ走行するW-2号溝跡を確認した。W-1号溝跡では、2時期以上、W-2号溝跡では、3時期の重複を確認した。Fig.8は、総社資料館蔵「蒼海城絵図」である。総社長尾氏が在城時のものと考えられており、この絵図中にはW-2号溝跡の存在を窺うことはできない。Fig.9は、蒼海城縦張図（山崎・1978）と前橋市都市計画図に調査区の位置を合成したものであるが、松井屋敷の東側の堀がW-1号溝跡と考えられ、これから西側へ派生する堀跡がW-2号溝跡にあたるものと考えられる。また、W-1号溝跡A期の底面付近、W-2号溝跡B期、C期の中位から底面にかけて、弱グライ化した粘土層、砂層の堆積が認められており、湛水した痕跡と考えられる。特に、W-2号溝跡B期では、グライ化した粘土層が厚く堆積することから、長期間湛水していたものと考えられる。調査区北西に認められる沼地の影響も考えられるのではないだろうか。今調査では、溝底面のレベルの比高差から流化方向を特定するには至らなかったが、これは近隣の調査事例の増加とともに解明されるものと思われる。これらの溝跡は、いずれも後世に溝跡を埋め戻す整地地業が行われておらず、W-1号溝跡は現道として活用されている事が確認されている。元總社地区の現道の多くは、堀跡を埋め戻したものと思われ、堀跡の想定も比較的容易であるが、一方で、これらが調査を難解にする一因ともなっている。今回の調査では、狹小な調査区の制限や、出土遺物の少なさから、遺構の詳細な時期を特定できたものは少なく、蒼海城の堀跡と想定されるW-1、W-2号溝跡においても詳細を捉える事は非常に困難であった。また、調査区は上野国府推定地内であったが、律令期の遺構、遺物の検出はできなかつた。今後、周辺の調査事例が増加する事で、上野国府、蒼海城の詳細がより明らかになるものと考えられる。

引用・参考文献

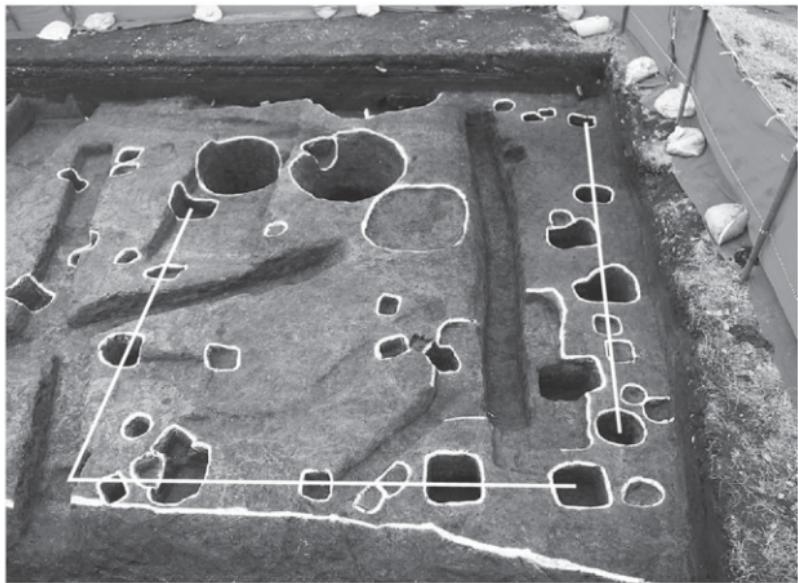
- 前橋市 1971『前橋市史 第一巻』
山崎 一 1978『群馬県古城墨跡の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会
高崎市教育委員会 1979『日高遺跡I』
高崎市教育委員会 1979～1980『正親寺遺跡群I～II』
前橋市教育委員会 1983『閑原塙遺跡』
前橋市教育委員会、前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1983～1997『元總社明神遺跡I～XIII』
群馬県 1988『群馬県史 資料編2』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986～1992『烏羽遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987～1992『上野国分寺・尼寺中間地域遺跡(1)～(8)』
群馬県 1991『群馬県史 通史編2』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993～1996『元總社寺田遺跡I～III』
前橋市教育委員会 2012『年報第42集』11 上野国府に関する既出資料の集成について』
前橋市教育委員会 2012『山王庵寺』平成22年度調査報告・1983～1997『元總社明神遺跡I～XIII』 前橋市教育委員会、前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002『元總社小見Ⅱ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002『元總社小見Ⅲ遺跡・元總社草作Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006『元總社蒼海遺跡群(6)』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『元總社蒼海遺跡群(21)』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『元總社蒼海遺跡群(25)』
前橋市教育委員会 2010『元總社蒼海遺跡群(31)』
前橋市教育委員会 2010『元總社蒼海遺跡群(34)』



完掘状況 全景（東から）



W-1号溝跡 全景（北から）



B-1・2号柱列跡 全景（北から）



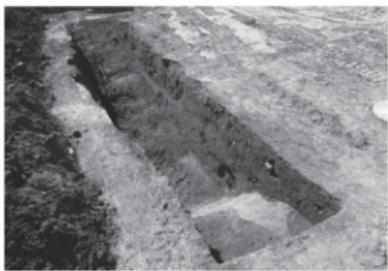
完掘状況 全景（西から）



W-1号溝跡 北壁土層断面（南から）



W-2号溝跡 西壁土層断面（東から）



W-2・3号溝跡 検出状況（北から）

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキダン (47)
書名	元総社蒼海遺跡群 (47)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	—
シリーズ名	—
シリーズ番号	—
編著者名	福田貴之・相澤正信
編集機関	株式会社シン技術コンサル
編集機関所在地	〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井311-1
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2
発行年月日	2013年3月27日

所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	位 置		調査期間	調査面積	調査原因
				北緯	東経			
元総社蒼海遺跡群 (47)	前橋市元総社町 2156	102021	24A130-47	36°23'17.84"	139°2'0.69"	20130204 ～ 20130225	156m ²	前橋都市計画事業 元総社蒼海土 地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
元総社蒼海遺跡群 (47)	集落跡 その他	中近世	柱列跡 溝跡 井戸跡 土坑 ピット	2基 3条 6基 5基 72基	カラケ 近世陶磁器	蒼海域の馴跡

元総社蒼海遺跡群 (47)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013年3月21日 印刷
2013年3月27日 発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2

TEL 027-231-9531

編集 株式会社シン技術コンサル

印刷 細谷印刷有限会社

